



家庭で一番多い事故・・・「窒息」

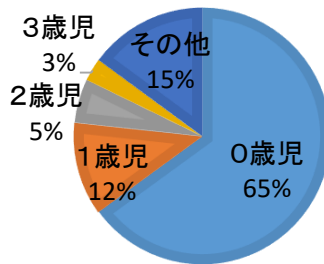
平成28年度の調査で、14歳以下の不慮の事故死数のうち、一番多いものが「窒息」でした。死亡者289人のうち、94人が窒息で亡くなっています。事故をなくすためには、どのようなことに気を付けたらよいのでしょうか？

圧倒的に多いのは0歳児

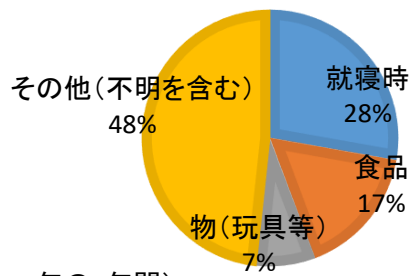
・子ども全体(14歳以下)で5年間に623件の窒息死が発生しており、0歳児が最多でした。

・窒息死の要因で多いのは、就寝時、食品、その他(おもちゃ等)によるものでした。

窒息死の年齢別比率



窒息死の要因件数比率

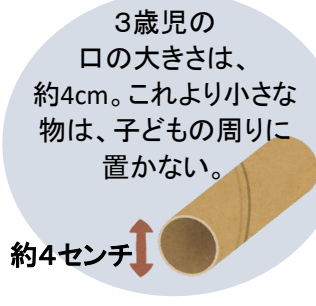


(H22年～H26年の5年間)

どのように予防するか？

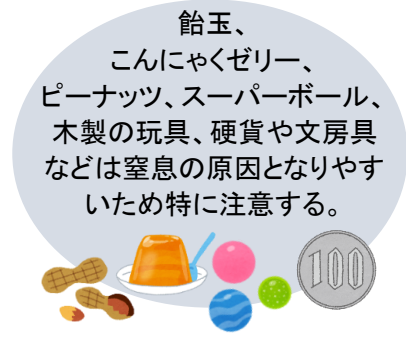


赤ちゃんのベッドに、ぬいぐるみやクッションを置かない。



3歳児の口の大きさは、約4cm。これより小さな物は、子どもの周りに置かない。

約4センチ



飴玉、こんにやくゼリー、ピーナッツ、スーパーボール、木製の玩具、硬貨や文房具などは窒息の原因となりやすいため特に注意する。

CAUTION

下記の症状があれば、救急車を呼び、応急処置を！



・のどを押さえる
・呼吸が苦しそう

・口に指を入れる
・顔色が急に青くなる

・声を出せない



応急処置

0歳児のこどもの気道異物の除去

【胸部突き上げ法】

- 1.片方の腕に乳児をあお向けに乗せ、後頭部をしっかりと持って頭側を下げ、もう片方の手の指2本で胸骨の下半分を力強く圧迫する。(5、6回を1セット)



交互に繰り返す

【背部叩打法】

- 1.片腕に、乳児をうつぶせに乗せ、手のひらで乳児のあごを支えつつ、頭を体よりも低く保つ。
- 2.もう一方の手の掌底部で、背中の真ん中を強く叩く。(5、6回を1セット)



※反応がなくなった場合は、子どもの心停止に対する心肺蘇生を開始してください